

2021年3月14日(日)

老球の細道599号

偉大なコーチ山崎先生の思い出〈PART22(最終回)〉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「ピタゴラスの定理」で有名なピタゴラスにはもう一つ有名な言葉がある。「ピタゴラスの訓戒」である。これには次のような言葉が記されている。「人間、一生のうちに家を建て、一本の木を植え、息子を一人つくり、本を一冊書く気構えで生きよ」。私がまだ達成していないのは「本を一冊書く」ことである。息子は二人もつくってしまったのに……………。

山崎先生は高校の教員でありながら4冊の本を出版している。実にこまめに記録を書き残しているため、実績に裏付けされた説得力のある本を書けるのだろう。そして本の中には琴線に触れる言葉の宝がたくさん散りばめられている。これらの言葉に叱咤激励されながら、私は今まででなんとかコーチング生活を続けている。

シリーズ最後になったので、先生の4冊目の著書『大野慎子物語』〈長崎出島文庫〉から心に残る「山崎語録」と私のリアクションを紹介したい。

◆指導者を越える選手は出ない。

日本一の選手を育てたいならコーチが日本一の夢と心意気を持って指導に当たる。

◆体力や技術を鍛える前に、目と耳を鍛えよ。

普通の選手が大きく伸びるためには、凄いものを見て感動する目と他人の話を素直に聞く耳を持たなければならない。指導者の日々の指導が選手に浸透するためにも。

◆非情は勝たせるコーチの不可欠条件。

コーチは嫌われることを恐れてはいけない。コーチの友人は孤独である。

◆他人の前でグチを言うな。

グチは人間の品性を貶める。グチはグッチのハンドバックに入れておけ。

◆話は短くまとめよ。

話が長いのは女性だけではない。文章を書くことで頭が整理され、話も短くまとまる。

◆自己を偉大視せよ。人の業績は思い込んでいるところまでしか到達しない。

サルは立ちたいと思ったから人間になった。日本一になろうと思わなければ日本一には絶対なれない。思いが強くなればなるほど、態度、行動、習慣も変化してくる。

◆発達途中はゼロに等しい。指導の効果は突然現れるものだ。

努力の成果はなかなか目に見えないが、継続は力なり。ある日突然世界が変わる。

◆集中力を身につけさせたいなら終わりをはっきりさせろ。

練習は一日2時間。一つのドリルは1分か2分。何事も終わりがあるからがんばれる。

◆コーチは選手より早くコートに立て。

選手のコートに入る状況を観察せよ。練習の初めから指導することがコーチの仕事。

◆教えただけでは強くなれない。

目に見えない進歩の中で、日々教えたことを修正、追加する粘り強い指導が選手を変える